

社会に向き合う③ ~自然環境を学び、そして守る~

サミットは、お取引を通じて絆を築いてきた各地域と協力し、お客様や社員と共に、自然体験や環境保全活動を行っています。

第3期「サミットの森」活動開始

山梨県北都留郡丹波山村にて「サミットの森」森林整備活動を実施しています。丹波山村は多摩川の水源地域に位置しており、林業の担い手不足が課題となっていました。この



村で森林整備をお手伝いすることは、東京の水源を守ることに繋がると考え、2006年に「サミットの森」活動を開始しています。第1期・第2期の「サミットの森」では村有林の間伐を中心とした整備を行い、10年間で延べ1,650人の社員とその家族が活動に参加しました。そして2019年からは、新たに第3期「サミットの森」がスタートしました。伐採後、放置されていたエリアに、5年間かけてミツバツツジやカエデ等を植樹していきます。2019年は、4月に社員ボランティアと共に植樹セレモニーを行い、5月と10月には2回ずつ、お客様向けの体験ツアーを実施して、参加者と一緒に植樹作業を行いました。



「サミットファーム」で自然の恵みを学ぶ

「サミットの森」で丹波山村と交流を深める中、村では高齢化による「耕作放棄地」の増加が問題となっていることがわかりました。当社は、社員が農作物の生産工程を理解することが重要だと考えていたので、それらの耕作放棄地を活用し、2015年より社員が農作業を行う「サミットファーム」の運用を開始しました。開墾から、植え付け、収穫まで、一通りの作業は、地元の協力を得ながら、社員研修や社員とその家族のボランティアで行います。慣れない作業は重労働ですが、自然の中で「野菜を育てる」ことの大変さを肌で感じる貴重な体験となりました。この体験をもっと多くの方々と共有したいと、2017年からは毎年、お客様向けの収穫体験ツアーも企画し、2019年には10回のツアーを実施しました。



沖縄サンゴ礁の再生

2000年より毎年「沖縄フェア」を実施し、県産品の販売や沖縄のレシピ・文化について紹介しています。県内の事業者とのお取引が増えていく中、サンゴ養殖の第一人者である金城浩二さん（(有)海の種 代表取締役）と出会い、その後2010年よりサンゴ礁再生のお手伝いをする事になりました。沖縄フェアの対象商品1点あたり1円をサンゴ移植のために寄付しており、2019年には1,400,000円を(有)海の種に寄付しました。初年度2010年の移植時には数センチだったサンゴも、今では1メートルほどの大きさに育ちました。

